

伝えたい 森山の魅力



森山ネット3も隊(もっと森山をもりあげ隊)

文・写真：代表 工藤 兼雄美



① 2高地から馬場目方面を望む



② 猛禽類のクマタカ



③ 雪の登山道



④ 雪の登山道



⑤ 森林公園の東屋



⑥ 湖東平野の冬景色

【冬の森山】

山から木枯らしが吹き降りる季節、放射冷却の強い朝は湖東地区が雲海に覆われる。あまり知られない絶景である①。この時期、人を恐れる素振りも見せず、彫像のように鉄塔に留まっているクマタカを見かけることがある②。森山は広大な太平洋系の西端に位置するだけに、時々山奥に棲む貴重な鳥獣が回遊して来るが、私たちは遠巻きに見守るに留めたいものである。冬の森山に登るのは、よほどの好事家と思っていた。けれども今年登って考えを改めた。手軽に冬の山の楽しさを味わえるのだ。常連登山者たちのおか

げで、いつも歩きやすい踏み跡がついている。冬の朝、最初の一步を踏み出す登山者は、「僕の前に道はない。僕の後ろに道は出来る。ああ自然よ。父よ・・・(道程)」と、詠んだ高村光太郎のような高揚感を味わえるかもしれない。

道は山の東南斜面を巻いているので、冷たい西風をまともに受けることがなく、平地並みの防寒具と長靴で十分である。踏み込まれた雪道は適度なクッションとなり、駆け下りても膝への負担が少ない。たとえ転んでも新雪がふわりと受け止めてくれる。驚いたことにプラ製のそりで森山大滑降を楽しむ方もおられた。これから流行(はや)るかもしれない。

一面真っ白で、清浄な風景は、初雪に興奮した子供時代を思い出す。冬の森山の魅力を、皆様にも存分に楽しんでいただきたい。(①②は荒川 滋氏撮影)

四月二日の定期登山は
三十五名参加という
大盛況

森山にかける皆様の心意気が感じられました。今年も春を告げる可憐な花々が迎えてくれました。



オトメエンゴサク



カダクリ



キサキイチグ